

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸美容学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	臨床実習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	後期	教室名	鍼灸センター・教室
担 当 教 員	大西真、本多健、奥谷和哉、桑原知子	実務経験とその関連資格	大西: 山下鍼灸院にて勤務、患者の診察・治療・治療補助・受付などの業務を行うはり師・きゅう師、按摩・マッサージ・指圧師			
《授業科目における学習内容》						
①附属鍼灸センターでの患者様の誘導・治療の流れを見学し理解する。②実際に患者誘導・医療面接を行い修得する。③治療での教員補助から問診と検査を中心に理解をし、準備・片付け・器具の扱いなども実践していく。④見学、患者誘導、医療面接、検査、治療補助を行った内容について適切に記録、報告する。⑤医療人としての職業的態度を修得する。						
《成績評価の方法と基準》						
評価の基準: 全出席者のみ評価対象とし、センター実習で60%、シミュレーション実習で40%とする。 評価の方法: 実習書・課題の提出(提出がない、遅れている、内容の不備などは減点対象となる。)センター実習中およびシミュレーション実習中の態度など総合的に評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
附属鍼灸センターではメモ帳、自身に必要な参考図書を持参すること。 シミュレーション実習では指定された教科書を用意すること。						
《授業外における学習方法》						
実際の患者さんを想定した誘導、医療面接、徒手検査や東洋医学的手法を実施していくために、これまでに学習した知識・技術の再構築と活用が必要となる。特に、センター実習、シミュレーション実習において自身に不足していると感じた知識・技術は次回授業までに復習し、再習得をしておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
全出席者のみ評価対象とするため、欠席・遅刻はしないようにする。 医療人として必要なマナーや態度を常に心がける。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	附属治療所実習における注意事項を理解し、説明できる。	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーションにて附属治療所実習の概要を説明する			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	模擬カンファレンス実施後に現状の課題を述べられる。	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。	
		各コマにおける授業予定	模擬カンファレンスにて症例検討をする			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	センター実習の一連の動線を確認し、治療準備と片づけができるようになる。	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。	
		各コマにおける授業予定	センター実習の一連の動線の確認 治療準備と片付けについて理解する 教員が行う治療の見学をし、補助を行う			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	センター実習の一連の動線を確認し、治療準備と片づけができるようになる。	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。	
		各コマにおける授業予定	センター実習の一連の動線の確認 治療準備と片付けについて理解する 教員が行う治療の見学をし、補助を行う			
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	症例に対し、実習の反省点を活かし、適切な応対ができる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。	
		各コマにおける授業予定	模擬症例および実習症例に対するシミュレーション実習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習 実習形式	授業を 通じての 到達目標	症例に対し、実習の反省点を活かし、適切な対応ができる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、 特に前回の授業で不足 していると感じた知識・ 技術の復習。
		各コマに おける 授業予定	模擬症例および実習症例に対するシュミレーション実習		
第7回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	センター実習の一連の動線を確認し、治療準備と片づけができるようになる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、 特に前回の授業で不足 していると感じた知識・ 技術の復習。
		各コマに おける 授業予定	センター実習の一連の動線の確認 治療準備と片付けについて理解する 教員が行う治療の見学をし、補助を行う		
第8回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	センター実習の一連の動線を確認し、治療準備と片づけができるようになる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、 特に前回の授業で不足 していると感じた知識・ 技術の復習。
		各コマに おける 授業予定	センター実習の一連の動線の確認 治療準備と片付けについて理解する 教員が行う治療の見学をし、補助を行う		
第9回	演習 実習形式	授業を 通じての 到達目標	症例に対し、実習の反省点を活かし、適切な対応ができる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、 特に前回の授業で不足 していると感じた知識・ 技術の復習。
		各コマに おける 授業予定	模擬症例および実習症例に対するシュミレーション実習		
第10回	演習 実習形式	授業を 通じての 到達目標	症例に対し、実習の反省点を活かし、適切な対応ができる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、 特に前回の授業で不足 していると感じた知識・ 技術の復習。
		各コマに おける 授業予定	模擬症例および実習症例に対するシュミレーション実習		
第11回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	実際の患者さんを想定した医療面接・必要な徒手検査や東洋医学的診察方法を行えるようになる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、 特に前回の授業で不足 していると感じた知識・ 技術の復習。
		各コマに おける 授業予定	医療面接により、主訴・症状・病位の確認、症状の頻度・持続・程度、随伴症状などについて確認する 症状に応じて必要な徒手検査や東洋医学的診察方を行う		
第12回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	実際の患者さんを想定した医療面接・必要な徒手検査や東洋医学的診察方法を行えるようになる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、 特に前回の授業で不足 していると感じた知識・ 技術の復習。
		各コマに おける 授業予定	医療面接により、主訴・症状・病位の確認、症状の頻度・持続・程度、随伴症状などについて確認する 症状に応じて必要な徒手検査や東洋医学的診察方を行う		
第13回	演習 実習形式	授業を 通じての 到達目標	症例に対し、実習の反省点を活かし、適切な対応および施術ができる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、 特に前回の授業で不足 していると感じた知識・ 技術の復習。
		各コマに おける 授業予定	模擬症例および実習症例に対するシュミレーション実習		
第14回	演習 実習形式	授業を 通じての 到達目標	症例に対し、実習の反省点を活かし、適切な対応および施術ができる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、 特に前回の授業で不足 していると感じた知識・ 技術の復習。
		各コマに おける 授業予定	模擬症例および実習症例に対するシュミレーション実習		
第15回	実習 形式	授業を 通じての 到達目標	実際の患者さんを想定した医療面接・必要な徒手検査や東洋医学的診察方法を行えるようになる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、 特に前回の授業で不足 していると感じた知識・ 技術の復習。
		各コマに おける 授業予定	医療面接により、主訴・症状・病位の確認、症状の頻度・持続・程度、随伴症状などについて確認する 症状に応じて必要な徒手検査や東洋医学的診察方を行う		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第16回	実習形式	授業を通じての到達目標	実際の患者さんを想定した医療面接・必要な徒手検査や東洋医学的診察方法を行えるようになる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。
		各コマにおける授業予定	医療面接により、主訴・症状・病位の確認、症状の頻度・持続・程度、随伴症状などについて確認する 症状に応じて必要な徒手検査や東洋医学的診察方を行う		
第17回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	症例に対し、実習の反省点を活かし、適切な応対および施術ができる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。
		各コマにおける授業予定	模擬症例および実習症例に対するシュミレーション実習		
第18回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	症例に対し、実習の反省点を活かし、適切な応対および施術ができる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。
		各コマにおける授業予定	模擬症例および実習症例に対するシュミレーション実習		
第19回	実習形式	授業を通じての到達目標	現代的・東洋医学的な病能把握ができる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。
		各コマにおける授業予定	医療面接・検査から得られた情報・所見から現代的・東洋医学的病能把握を行う		
第20回	実習形式	授業を通じての到達目標	現代的・東洋医学的な病能把握ができる	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。
		各コマにおける授業予定	医療面接・検査から得られた情報・所見から現代的・東洋医学的病能把握を行う		
第21回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの症例に対し、自身の考えを述べられる。	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。
		各コマにおける授業予定	症例検討まとめ		
第22回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	これまでのセンター実習を振り返り、自身の良かった点と改善点を述べられる。	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。
		各コマにおける授業予定	センター実習の振り返り		
第23回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	臨床実習Ⅲを振り返り、自身の反省点と3年生に向けての取り組みを述べられる。	実習書 実習マニュアル 参考図書	これまでの授業の復習、特に前回の授業で不足していると感じた知識・技術の復習。
		各コマにおける授業予定	臨床実習Ⅲの総括・まとめ		
第24回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 26 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定			
第 27 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定			
第 28 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定			
第 29 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定			
第 30 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定			
第 31 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定			
第 32 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定			
第 33 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定			
第 34 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定			
第 35 回	授業を 通じての 到達目標			
	各コマに おける 授業予定			